



本図は、国土交通省国土地理院発行の5千分の1の国土基本計画図を基に作成された徳島県農林水産部発行の地図を使用した。

2) 生物の生息・生育状況

本地区や地区周辺の生物相が示されている文献として、以下に示す4点を収集しました。

- ・「阿波町史」、阿波町、昭和54年
- ・「総合学術調査報告 脇町及びその周辺」、阿波学会・徳島県立図書館、昭和48年
- ・「総合学術調査報告 土成町」、阿波学会・徳島県立図書館、平成2年
- ・「五明谷川流域生物事前調査」、徳島県川島土木事務所、平成6年

また、生物相の概要を把握するために、平成13年11月に簡易な現地調査を行いました。

既存資料や現地調査によって記録および確認された生物種を表に整理します。以下に、整理方法の一例を示します。

■記録および確認された動物種（昆虫類は除く）

確認生物種リスト（動物）

綱	目	No.	種名	現地	文献①	文献②	文献③	文献④	全国レッド	徳島県
哺乳綱	モグラ目	1	サイゴクジネズミ		●					
		2	シコクヒミズ		●					
		3	コウベモグラ		●					
	コウモリ目	4	コキクガシラコウモリ		●					
		5	キクガシラコウモリ		●					
		6	アブラコウモリ		●					
		7	ユビナガコウモリ		●					
	ウサギ目	8	ノウサギ		●					
	ネズミ目	9	ムササビ		●					
		10	スミスネズミ		●					
		11	ホンドアカネズミ		●	●				
		12	ヒメネズミ		●					
		13	カヤネズミ		●					
		14	クマネズミ		●					
		15	ドブネズミ		●					
	ネコ目	16	ホンドタヌキ	●	●					
		17	チョウセンイタチ		●					
		18	ホンドイタチ		●					
	ウシ目	19	ホンドジカ		●					
鳥綱	カイツブリ目	20	カイツブリ		●			●		
	コウノトリ目	21	ミゾゴイ					●	準絶滅危惧	準絶滅危惧
		22	ゴイサギ	●	●			●		
		23	ササゴイ					●		
		24	アマサギ					●		
		25	ダイサギ					●		
		26	チュウサギ					●	準絶滅危惧	準絶滅危惧
		27	コサギ	●				●		
		28	アオサギ	●				●		
	カモ目	29	コハクチョウ	●						準絶滅危惧
		30	オンドリ					●		絶滅危惧Ⅱ類
		31	マガモ	●	●					
		32	アヒル	●						
		33	カルガモ	●	●					
		34	ウミアイサ	●						絶滅危惧Ⅱ類
	タカ目	35	ハチクマ					●	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
		36	トビ	●	●					
		37	オオタカ	●					種の保存法, 絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
		38	ノスリ					●		
		39	サシバ					●		
	キジ目	40	ウズラ		●				情報不足	絶滅危惧Ⅱ類
41		コジュケイ		●			●			
42		ヤマドリ		●			●			
43		キジ		●			●			
ツル目	44	クイナ		●			●		準絶滅危惧	
	45	ヒクイナ		●			●			
	46	バン					●			
	47	オオバン	●							

確認生物種リスト（動物）

綱	目	No.	種名	現地	文献①	文献②	文献③	文献④	全国レッド	徳島県	
鳥綱	チドリ目	48	タマシギ					●		絶滅危惧Ⅱ類	
		49	コチドリ					●			
		50	イカルチドリ	●				●			
		51	タゲリ					●			
		52	クサシギ					●			
		53	キアシシギ		●			●			
		54	イソシギ	●	●			●			
		55	ヤマシギ		●			●			
		56	タシギ	●	●			●			
		57	コアジサシ		●			●		絶滅危惧Ⅱ類	
		ハト目	58	ドバト	●				●		絶滅危惧Ⅱ類
			59	キジバト	●	●			●		
			60	アオバト		●			●		
		カッコウ目	61	カッコウ		●			●		
			62	ツツドリ					●		
			63	ホトトギス		●			●		
		フクロウ目	64	アオバズク		●			●		準絶滅危惧
	65		フクロウ		●			●			
	ヨタカ目	66	ヨタカ		●			●		絶滅危惧Ⅱ類	
	アマツバメ目	67	アマツバメ					●		絶滅危惧Ⅱ類	
	ブッポウソウ目	68	ヤマセミ					●		絶滅危惧Ⅱ類	
		69	カワセミ	●	●			●			
	キツツキ目	70	アオゲラ		●			●			
		71	コゲラ		●			●			
	スズメ目	72	ヒバリ	●	●			●			
		73	ツバメ		●			●			
		74	コシアカツバメ		●			●			
		75	イワツバメ					●			
		76	キセキレイ	●	●			●			
		77	ハクセキレイ	●	●			●			
		78	セグロセキレイ	●	●			●			
		79	タヒバリ		●			●			
		80	サンショウクイ		●			●		絶滅危惧Ⅱ類	
		81	ヒヨドリ	●	●			●			
		82	モズ	●	●			●			
		83	ミソサザイ					●			
		84	カヤクグリ					●		準絶滅危惧	
		85	コマドリ					●		準絶滅危惧	
		86	ノゴマ					●			
		87	ルリビタキ					●		準絶滅危惧	
		88	ジョウビタキ	●	●			●			
		89	ノビタキ					●			
		90	トラツグミ		●			●			
		91	クロツグミ					●			
		92	シロハラ	●	●			●			
		93	ツグミ	●	●			●			
		94	ヤブサメ					●			
		95	ウグイス	●	●			●			
		96	オオヨシキリ					●			
		97	メボソムシクイ					●		準絶滅危惧	
		98	エゾムシクイ					●		絶滅危惧Ⅱ類	
		99	センダイムシクイ					●			
		100	キクイタダキ					●			
		101	セッカ					●			
		102	キビタキ					●			
		103	オオルリ		●			●			
		104	コサメビタキ					●			
	105	サンコウチョウ		●			●				
	106	エナガ	●				●				
	107	ヒガラ					●				
	108	ヤマガラ		●			●				
	109	シジュウカラ		●			●				
	110	メジロ	●	●			●				
	111	ホオジロ	●	●			●				
	112	ホオアカ					●				
	113	カシラダカ	●	●			●				
	114	ミヤマホオジロ	●				●				
	115	アオジ	●	●			●				
	116	クロジ					●				
	117	アトリ					●				
	118	カワラヒワ	●				●				
	119	マヒワ		●			●				
	120	ベニマシコ					●				
	121	ウソ					●				
	122	イカル		●			●				
	123	シメ		●			●				
	124	スズメ	●	●			●				
	125	コムクドリ		●			●				
	126	ムクドリ	●	●			●				
	127	カケス	●	●			●				
	128	ハシボソガラス	●	●			●				
	129	ハシブトガラス	●	●			●				

確認生物種リスト（動物）

綱	目	No.	種名	現地	文献①	文献②	文献③	文献④	全国レッド	徳島県		
爬虫綱	カメ目	130	クサガメ		●	●						
		131	アカミミガメ	●								
	132	イシガメ		●						絶滅危惧Ⅱ類		
	トカゲ目	133	ヤモリ		●							
134		トカゲ		●	●							
爬虫綱	トカゲ目	135	カナヘビ		●	●						
		136	シマヘビ		●	●						
		137	ジムグリ		●						準絶滅危惧	
		138	アオダイショウ		●							
		139	ヤマカガシ		●							
		140	マムシ		●	●						
両生綱	サンショウウオ目	141	カスミサンショウウオ		●				絶滅のおそれのある地域 個体群	絶滅危惧Ⅱ類		
		142	イモリ		●							
	カエル目	143	ニホンヒキガエル		●							
		144	アマガエル	●	●	●						
		145	ニホンアカガエル		●	●					絶滅危惧Ⅱ類	
		146	ヤマアカガエル		●							
		147	トノサマガエル		●	●						
		148	ヌマガエル		●							
		149	ウシガエル	●	●	●						
		150	ツチガエル		●	●						
		151	シュレーゲルアオガエル		●							
		152	カジカガエル		●							
硬骨魚綱	ウナギ目	153	ウナギ		●							
	コイ目	154	コイ		●							
		155	ギンブナ		●							
		156	キンブナ		●							
		157	タイリクバラタナゴ	●								
		158	オイカワ		●							
		159	ウグイ		●							
		160	モツゴ		●						留意	
		161	カマツカ		●							
		162	ニゴイ		●							
		163	ドジョウ		●						絶滅危惧Ⅱ類	
		164	シマドジョウ		●							
		165	ホトケドジョウ		●					絶滅危惧ⅠB類		
		ナマズ目	166	ギバチ		●					絶滅危惧Ⅱ類	
			167	ナマズ		●						
	168		アカザ		●					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
	サケ目	169	アユ		●							
	ダツ目	170	メダカ	●	●				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
	カサゴ目	171	カマキリ		●						準絶滅危惧	
スズキ目	172	オオクチバス	●									
	173	ドンコ		●								
	174	カワヨシノボリ		●								
	175	タイワンドジョウ		●								

- ① 阿波町史編纂委員会, 1979. 阿波町史
- ② 徳島県川島土木事務所, 1994. 五明谷川多自然型川づくり業務 五明谷川流域生物事前調査中間報告書
- ③ 阿波学会, 1973. 総合学術調査報告 脇町及びその周辺 郷土研究発表会紀要 (19)
- ④ 阿波学会, 1990. 総合学術調査報告 土成町 郷土研究発表会紀要 (36)

原本で「○○の1種」等や和名が不適切で種が特定できない種は割愛した。
現地調査は阿波町内、2001年11月15～17日実施。

■記録および確認された維管束植物

No.	和名	科名	現地	植物誌	標本	全国レッド	徳島県
1	ミズスギ	ヒカゲノカズラ		○	○		
2	イノモトソウ	イノモトソウ			○		
3	オオベニシダ	オシダ		○			
4	ヒメイタチシダ	オシダ		○			
5	トキワトラノオ	チャセンシダ		○	○		
6	モミ	マツ		○	○		
7	アカマツ	マツ	○				
8	ヤマナラシ	ヤナギ		○			
9	アカメヤナギ	ヤナギ	○				
10	ネコヤナギ	ヤナギ	○				
11	タチヤナギ	ヤナギ	○				
12	ヨシノヤナギ	ヤナギ	○				
13	クヌギ	ブナ	○				
14	アラカシ	ブナ	○				
15	コナラ	ブナ	○				
16	アベマキ	ブナ		○	○		
17	メヤブマオ	イラクサ			○		
18	アオミズ	イラクサ		○			
19	ヤナギタデ	タデ	○				
20	ヤノネグサ	タデ			○		
21	ヤマコウバシ	クスノキ			○		
22	トリガタハンショウヅル	キンボウゲ		○			
23	ウマノアシガタ	キンボウゲ	○				
24	タガラシ	キンボウゲ	○				
25	サイコクイカリソウ	メギ		○	○	絶滅危惧IB類	絶滅危惧I類
26	ジュンサイ	スイレン		○	○		絶滅危惧I類
27	ヒトリシズカ	センリョウ		○			
28	オトギリソウ	オトギリソウ		○			
29	ヒメオトギリ	オトギリソウ		○	○		
30	イシモチソウ	モウセンゴケ		○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
31	モウセンゴケ	モウセンゴケ		○	○		絶滅危惧I類
32	イワネコノメソウ	ユキノシタ		○	○		
33	ニッコウネコノメ	ユキノシタ		○	○		
34	ヒメキンミズヒキ	バラ		○	○		
35	カワラサイコ	バラ	○				絶滅危惧II類
36	キジムシロ	バラ			○		
37	ヤマザクラ	バラ	○	○			
38	ワレモコウ	バラ		○	○		
39	ウラジロノキ	バラ		○			
40	ミソナオシ	マメ			○		絶滅危惧II類
41	イヌハギ	マメ	○	○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
42	マキエハギ	マメ		○	○		絶滅危惧I類
43	ナツフジ	マメ		○	○		
44	オオバタンキリマメ	マメ		○	○		
45	クララ	マメ		○	○		
46	ヨツバハギ	マメ		○	○		情報不足
47	ナンテンハギ	マメ	○	○	○		
48	カンコノキ	トウダイグサ		○			
49	コバンノキ	トウダイグサ			○		
50	オオツルウメモドキ	ニシキギ		○	○		絶滅危惧I類
51	コガンピ	ジンチョウゲ		○	○		
52	ガンピ	ジンチョウゲ		○	○		
53	クスドイゲ	イイギリ		○			
54	アオイスミレ	スミレ			○		
55	ウシタキソウ	アカバナ		○	○		
56	ヒシ	アカバナ	○				
57	ハナビゼリ	セリ		○			
58	カイナンサラサドウダン	ツツジ		○	○		
59	コバノミツバツツジ	ツツジ		○	○		
60	ヌマトラノオ	サクラソウ			○		

No.	和名	科名	現地	植物誌	標本	全国レッド	徳島県
61	ガガブタ	リンドウ		○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
62	イヌセンブリ	リンドウ		○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
63	スズサイコ	ガガイモ		○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
64	オヤマムグラ	アカネ		○	○		
65	ホタルカズラ	ムラサキ		○	○		
66	アキノタムラソウ	シソ			○		
67	ミゾコウジュ	シソ	○			準絶滅危惧	絶滅危惧I類
68	タツナミソウ	シソ		○	○		
69	キクモ	ゴマノハグサ			○		
70	アゼナ	ゴマノハグサ			○		
71	カワヂシャ	ゴマノハグサ	○			準絶滅危惧	準絶滅危惧
72	ヒシモドキ	ゴマ		○	○	絶滅危惧IA類	絶滅
73	ミミカキグサ	タヌキモ		○	○		絶滅危惧II類
74	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ		○	○		絶滅危惧I類
75	イヌタヌキモ	タヌキモ	○				絶滅危惧I類
76	ヤマウグイスカグラ	スイカズラ		○			
77	ヤブウツギ	スイカズラ		○	○		
78	ツリガネニンジン	キキョウ		○	○		
79	キキョウ	キキョウ			○	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
80	リュウノウギク	キク			○		
81	カンサイタンポポ	キク	○				
82	オモダカ	オモダカ		○	○		
83	ミズオオバコ	トチカガミ		○	○		絶滅危惧II類
84	エビモ	ヒルムシロ	○				
85	ヒルムシロ	ヒルムシロ		○	○		
86	ホソバミズヒキモ	ヒルムシロ			○		
87	ヤナギモ	ヒルムシロ	○				
88	ソクシンラン	ユリ	○	○	○		絶滅危惧II類
89	ヤマラッキョウ	ユリ			○		
90	アマナ	ユリ		○	○		
91	ヒメドコロ	ヤマノイモ			○		
92	オニドコロ	ヤマノイモ			○		
93	ヒロハノコウガイゼキショウ	イグサ		○	○		
94	オオトウシンソウ	イグサ	○				絶滅危惧II類
95	タチコウガイゼキショウ	イグサ		○	○		
96	コウガイゼキショウ	イグサ		○			
97	イトイヌノヒゲ	ホシクサ		○	○		絶滅危惧II類
98	トダシバ	イネ		○	○		
99	アズマガヤ	イネ			○		絶滅危惧I類
100	ヤマカモジグサ	イネ		○	○		
101	ヌマカゼクサ	イネ	○	○	○		絶滅危惧I類
102	トボシガラ	イネ		○	○		
103	ムツオレグサ	イネ		○	○		
104	チゴザサ	イネ			○		
105	サヤヌカグサ	イネ			○		
106	コメガヤ	イネ		○	○		
107	ササガヤ	イネ			○		
108	アシボソ	イネ			○		
109	ヌカキビ	イネ			○		
110	チカラシバ	イネ			○		
111	マダケ	イネ	○				
112	ミゾイチゴツナギ	イネ		○	○		
113	イチゴツナギ	イネ		○	○		
114	ハマヒエガエリ	イネ		○	○		
115	ウキシバ	イネ	○	○	○		絶滅危惧I類
116	キンエノコロ	イネ			○		
117	カニツリグサ	イネ		○	○		
118	ショウブ	サトイモ	○				
119	コガマ	ガマ		○	○		絶滅危惧I類
120	イトハナビテンツキ	カヤツリグサ		○	○		

No.	和名	科名	現地	植物誌	標本	全国レッド	徳島県
121	マツバスケ	カヤツリグサ		○	○		
122	アオスケ	カヤツリグサ		○	○		
123	ケタガネソウ	カヤツリグサ		○	○		
124	アゼナルコ	カヤツリグサ	○		○		
125	ヒカゲスケ	カヤツリグサ		○	○		
126	カタスケ	カヤツリグサ	○		○		絶滅危惧I類
127	タチスケ	カヤツリグサ		○	○		
128	ゴウソ	カヤツリグサ		○	○		
129	ノゲヌカスケ	カヤツリグサ		○	○		
130	イヌクゲ	カヤツリグサ		○	○		
131	アゼガヤツリ	カヤツリグサ		○	○		
132	マツバイ	カヤツリグサ		○			
133	ハリイ	カヤツリグサ		○	○		
134	クログワイ	カヤツリグサ		○	○		
135	シカクイ	カヤツリグサ		○	○		
136	テンツキ	カヤツリグサ		○	○		
137	クゲテンツキ	カヤツリグサ		○			
138	ヤマイ	カヤツリグサ		○			
139	トラノハナヒゲ	カヤツリグサ		○	○		
140	イヌノハナヒゲ	カヤツリグサ		○	○		
141	イトイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ		○	○		情報不足
142	コイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ		○	○		絶滅危惧II類
143	イガクサ	カヤツリグサ		○	○		
144	ノグサ	カヤツリグサ		○	○		絶滅危惧II類
145	ホタルイ	カヤツリグサ		○	○		
146	ヒメホタルイ	カヤツリグサ	○				
147	フトイ	カヤツリグサ	○	○	○		
148	カンガレイ	カヤツリグサ	○		○		
149	シンジュガヤ	カヤツリグサ		○	○		情報不足
150	ミカワシンジュガヤ	カヤツリグサ		○	○	絶滅危惧IB類	絶滅危惧I類
151	コシンジュガヤ	カヤツリグサ		○	○		情報不足
152	マネキシシンジュガヤ	カヤツリグサ		○	○		情報不足
153	シュンラン	ラン		○	○		
154	ミズトンボ	ラン		○	○	絶滅危惧II類	絶滅危惧I類
155	ムカゴソウ	ラン		○	○		情報不足
156	オオバノトンボソウ	ラン		○	○		
157	コバノトンボソウ	ラン		○	○		情報不足

① 阿部近一. 徳島県植物誌. 1990

② 徳島県立博物館収蔵標本

現地は、現地確認によるものを記載。

種数が多いため、帰化植物など一部を割愛した。

8-3

保全、復元、創出が望まれるビオトープの

種類や配置について考えましょう

(1) 目標種を検討しましょう

ここまでの検討結果をふまえて、環境区別に目標種を整理します。

目標種は、既存文献での確認種と本プランに示した「ビオトープタイプ区分と代表種」などを参考として設定します。

■環境別の目標種

	環境区分								目標期間 ^{注)}		
	扇状地先端の 斜面林	吉野川の旧流路	吉野川の支川	ため池	吉野川	湧水によって 湿っている場所	低地の 水田地帯	台地の 水田地帯	短期	中期	長期
カヤネズミ			○		○	○	○	○		●	
タヌキ	○	○	○	○	○	○	○	○		●	
ゴイサギ	○	○	○	○	○					●	
ササゴイ	○	○	○	○	○					●	●
アオサギ	○	○	○	○	○					●	
カルガモ (繁殖)		○		○		○	○	○	●	●	
イカルチドリ			○		○					●	
コアシサシ		繁殖 (コロニー)			○					●	
クイナ (越冬)						○				●	
ヒクイナ						○	○	○		●	
タマシギ						○	○	○			●
オオタカ	○				○						●
サシバ	○				○						●
アオバズク	○										●
カワセミ	○	○	○	○						●	
オオヨシキリ		○	○	○	○				●	●	
ヤマガラ	○									●	
カケス	○								●		
イシガメ		○	○	○						●	
ニホンアカガエル			○			○				●	
シュレーゲルアオガエル						○	○			●	
カジカガエル			○		○					●	
ドジョウ		○	○		○	○			●		
メダカ				○		○				●	
ナマズ		○	○	○	○					●	
キイトトンボ		○		○		○				●	
チョウトンボ		○	○	○					●	●	
オニヤンマ		○	○	○		○			●		
カワラバッタ					○					●	
コムラサキ		○	○	○	○				●		
キリギリス			○				○	○		●	
シマアメンボ									●		

注) 目標期間は、現状の環境を保全することで保護が可能な種については「短期」とし、保護・回復にある程度の環境の復元や面積の拡大が必要な種は「中期」とします。森林の生長や生物群集の回復が必要な生物、住民の理解・協力や複数の官庁による事業が必要な場合など、少なくとも10年単位の時間が必要な種は「長期」とします。

■環境別の目標種（植物）

	環境区分							目標期間 ^{注)}			
	扇状地先端の 斜面林	吉野川の旧流路	吉野川の支川	ため池	吉野川	湧水によって 湿っている場所	低地の 水田地帯	台地の 水田地帯	短期	中期	長期
アカメヤナギ		○	○		○				●		
ネコヤナギ			○		○					●	
タチヤナギ			○		○					●	
ヨシノヤナギ		○	○		○				●		
クヌギ	○								●		
コナラ	○								●		
ヤナギタデ		○	○		○			○	●		
ウマノアシガタ					○		○	○	●		
サイコクイカリソウ	○										●
ジュンサイ				○							●
イシモチソウ						○					●
モウセンゴケ						○					●
カワラサイコ			○		○					●	
ミソナオシ	○								●		
イヌハギ			○		○				●		
マキエハギ	○			○							●
ヨツバハギ							○				●
ナンテンハギ	○						○		●		
ヌマトラノオ				○					●		
ガガブタ				○							●
イヌセンブリ				○		○					●
スズサイコ	○										●
ホタルカズラ	○								●		
ミゾコウジュ		○	○	○	○		○		●		
キクモ				○	○		○	○	●		
カワヂシャ		○	○	○	○		○	○	●		
ヒシモドキ				○							●
ミミカキグサ				○							●
ホザキノミミカキグサ				○		○					●
イヌタヌキモ				○				○	●		
キキョウ	○							○			●
カンサイタンポポ					○		○	○	●		
ミズオオバコ				○				○			●
エビモ		○	○	○	○		○	○	●		
ヒルムシロ				○			○	○		●	
ヤナギモ		○	○	○	○			○	●		
ソクシンラン						○				●	
オトウシンソウ		○	○		○					●	
イトイヌノヒゲ						○					●
ヌマカゼクサ				○							●
ウキシバ				○							●
ショウブ				○							●
コガマ		○	○	○		○		○	●		
アゼナルコ		○	○	○	○		○	○	●		
タチスゲ				○				○		●	
トラノハナヒゲ						○					●
イヌノハナヒゲ						○					●
イトイヌノハナヒゲ						○					●
コイヌノハナヒゲ						○					●
ノグサ						○					●
フトイ				○				○		●	
ミカワシンジュガヤ						○					●
コシンジュガヤ						○					●
シュンラン	○								●		
ミズトンボ						○					●

(2) ビオトープを保全、復元、創出する方法について検討しましょう

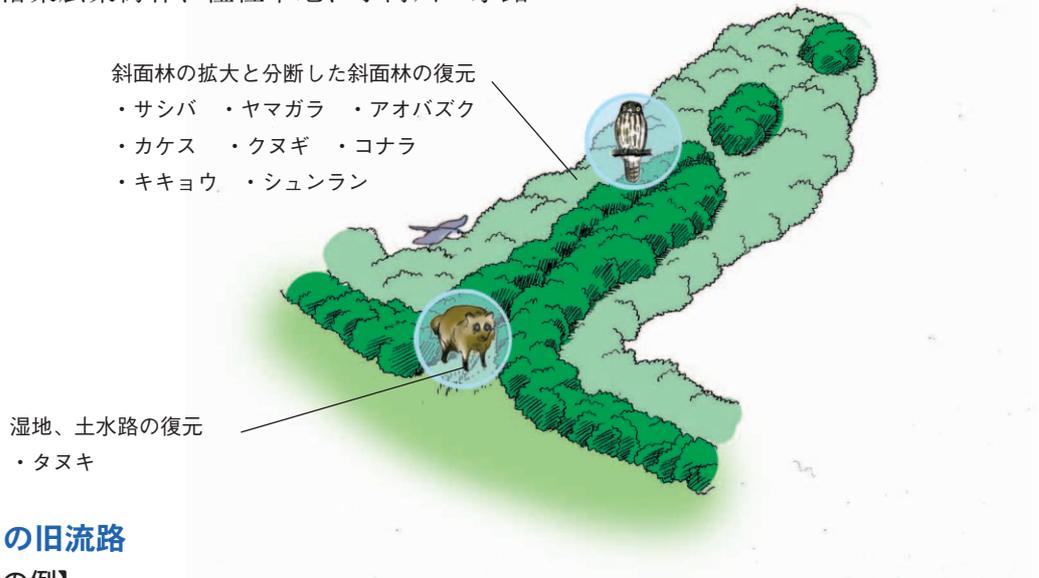
● 扇状地先端の斜面林

【考え方の例】

鳥類や哺乳類の生態的回廊となっていると考えられることから、開発による斜面林の分断、消失を抑制し、樹林地の連続性を確保することが望まれます。

【目標とするビオトープタイプ】

低地落葉広葉樹林、湿性草地、小河川・水路



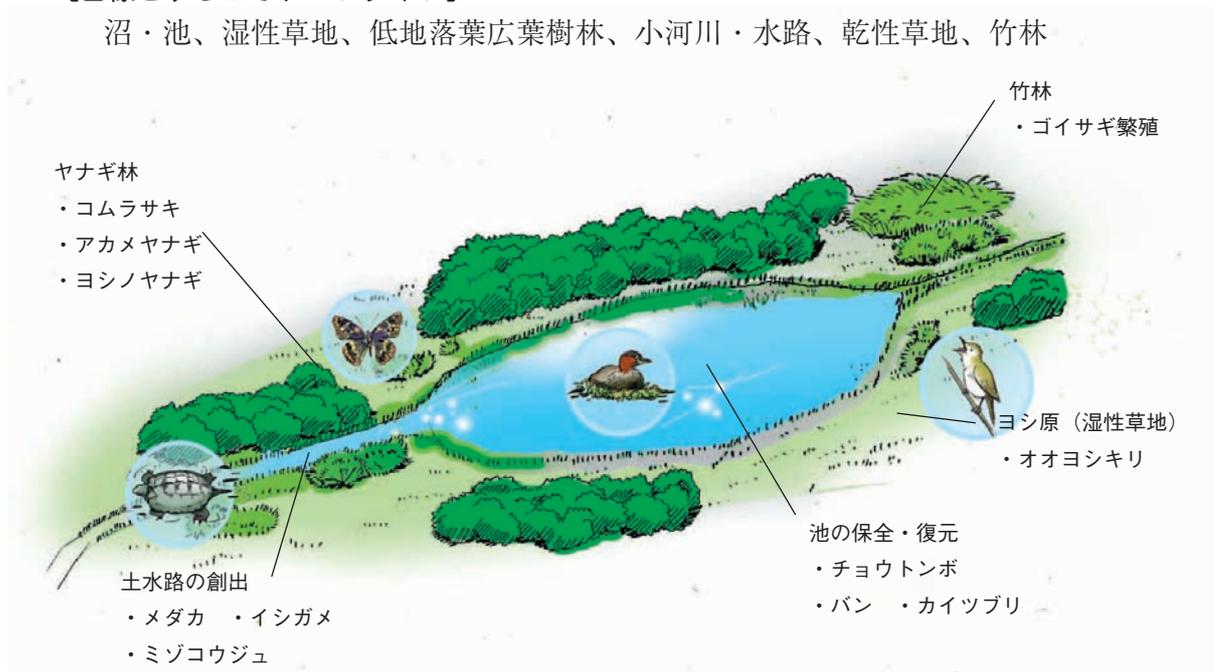
● 吉野川の旧流路

【考え方の例】

乾燥した場所が大部分を占める当地区において、本来湿性環境が見られた地域であるため、埋め立てられた河道跡の沼の復元や旧流路に沿って水路や湿地の復元を図ることにより、湿性環境の復元を図ります。

【目標とするビオトープタイプ】

沼・池、湿性草地、低地落葉広葉樹林、小河川・水路、乾性草地、竹林



●吉野川の支川

【考え方の例】

讃岐山脈から流れ出る河川は、山地と吉野川をつないでおり、哺乳類や鳥類が移動する生態的回廊になると考えられることから、次に示す方法によりその機能を高めることが望まれます。

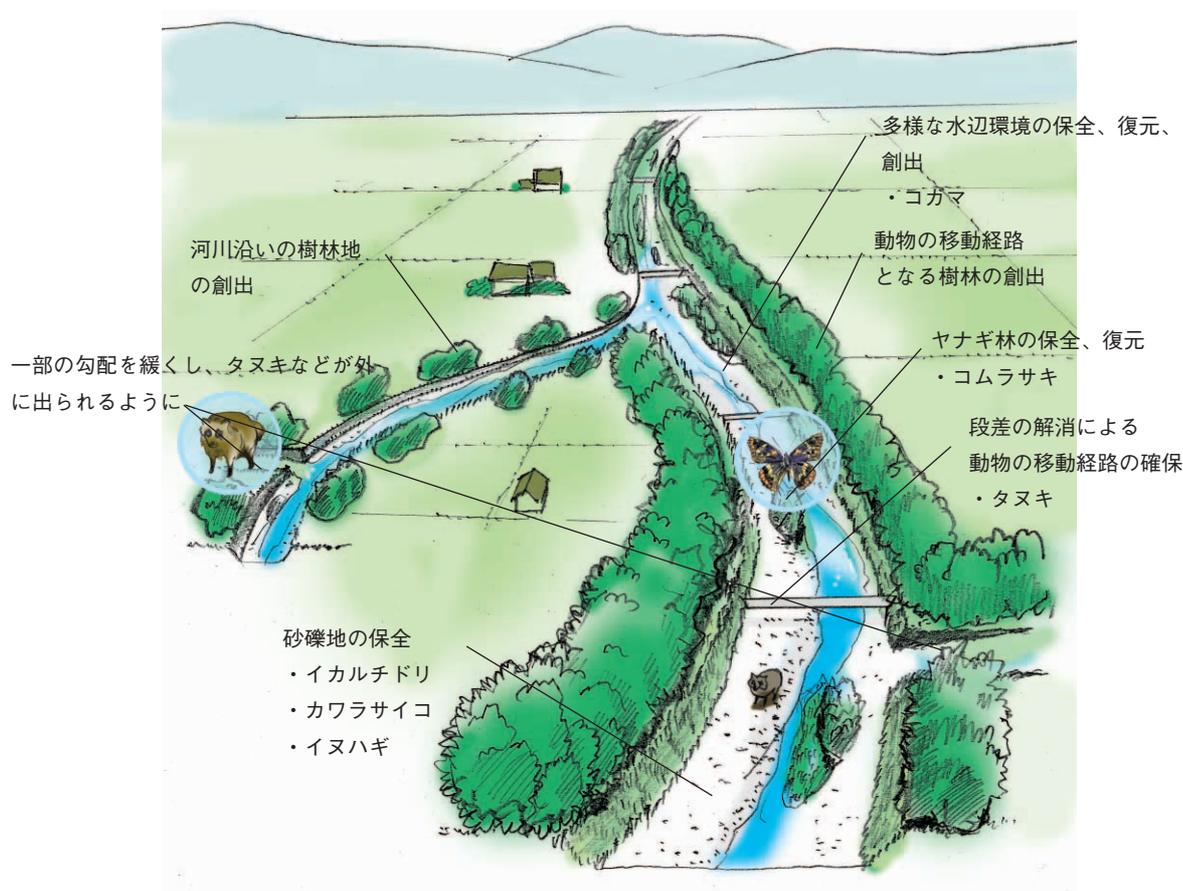
- ・河川に沿って草地や樹林地を育成し、連続性を高める。
- ・構造物による縦断方向の段差を解消するとともに、哺乳類が河川内と外を行き来しやすい形態へと改修する。

また、河川の草地や水辺は昆虫の生息地となっていると考えられることから、次に示す方法により生息環境の向上を図ることが望まれます。

- ・水辺から陸地へと移り変わる場所をつくる。
- ・細い河川の中水敷きに草地をつくる。
- ・護岸を緩やかにし、草地化する。
- ・大久保谷川や伊沢谷川などの大きな河川では深さや幅の異なる水路や砂礫地、草地などの多様な環境を保全、復元する。

【目標とするビオトープタイプ】

低地落葉広葉樹林、乾性草地、湿性草地、小河川・水路、洲



● **ため池**

【考え方の例】

カモ類などの水鳥の生息環境となっているため、池の周辺での低地落葉広葉樹林の育成や、人の姿を遮蔽する植栽や施設などの設置により、環境の保全を図ることが望まれます。また、湿地性の鳥やトンボやカエルなどが生息できる、水辺から陸地へと移り変わる湿地を創出することが望まれます。

【目標とするビオトープタイプ】

沼・池、湿性草地、低地落葉広葉樹林



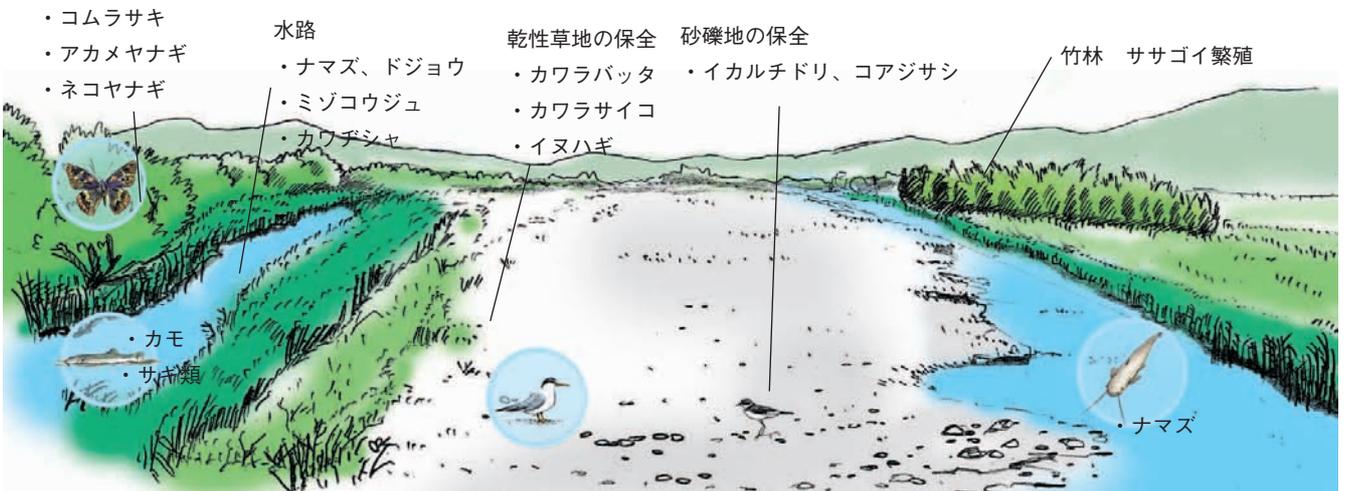
● **吉野川**

【考え方の例】

対象区域は、吉野川の中流域に位置し、砂礫地が本来の環境と考えられることから、草地化、樹林化が極度に進んだ場合には砂礫地を復元することが望まれます。また、県のビオトープネットワークの大拠点であるため車両の乗り入れの規制などにより、カモ類やコアジサシなどの保護を図ることが望まれます。

【目標とするビオトープタイプ】

ヤナギ林 沼・池、水路、湿性草地、乾性草地、低地落葉広葉樹林、低地低木林、竹林、洲



●湧水や湧水によって湿っている場所

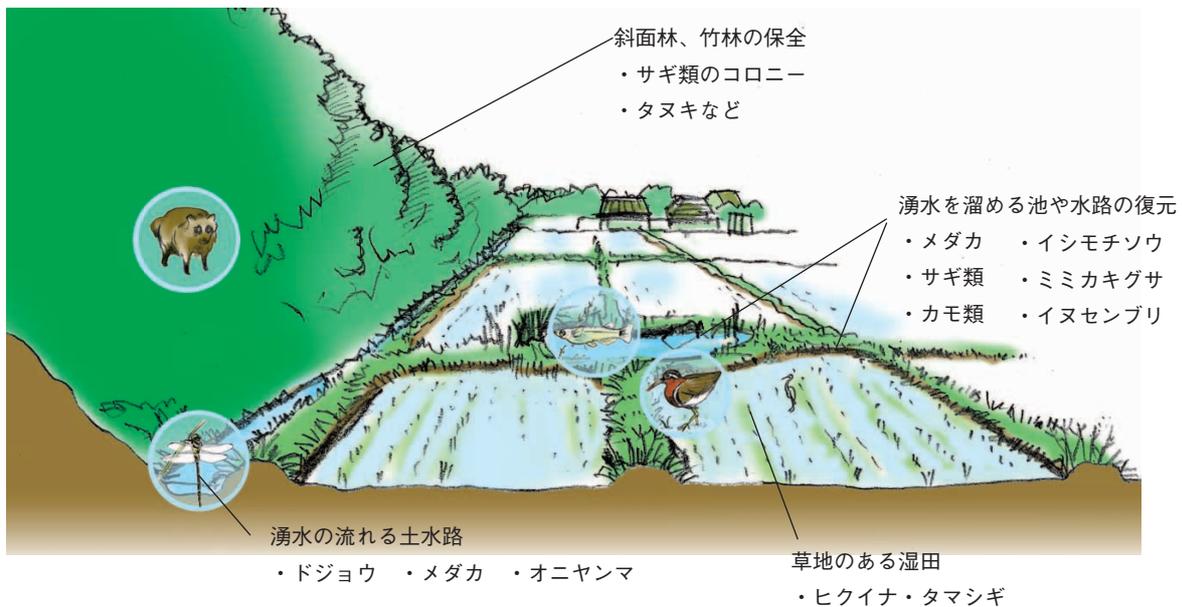
【考え方の例】

扇状地の先端部には、湧水が分布しています。湧水や湧水によって湿っている場所は、乾燥した場所が多い本地域において貴重な生物の生息場所であることから、次に示す方法により保全を図ることが望まれます。

- ・土の岸辺が残された水路を保全、復元し、湧水性の生物の生息に適した環境を保全する。
- ・湧水地と湿地を分断する構造物（道路、コンクリートの側溝）などを改善し、環境の連続性を確保する。
- ・場所によっては、池を掘り、湿地環境を創出する。
- ・水田の畦や土水路の復元を図る。

【目標とするビオトープタイプ】

池、沼、湿性草地、乾性草地、低地低木林、小河川・水路



●低地の水田地帯

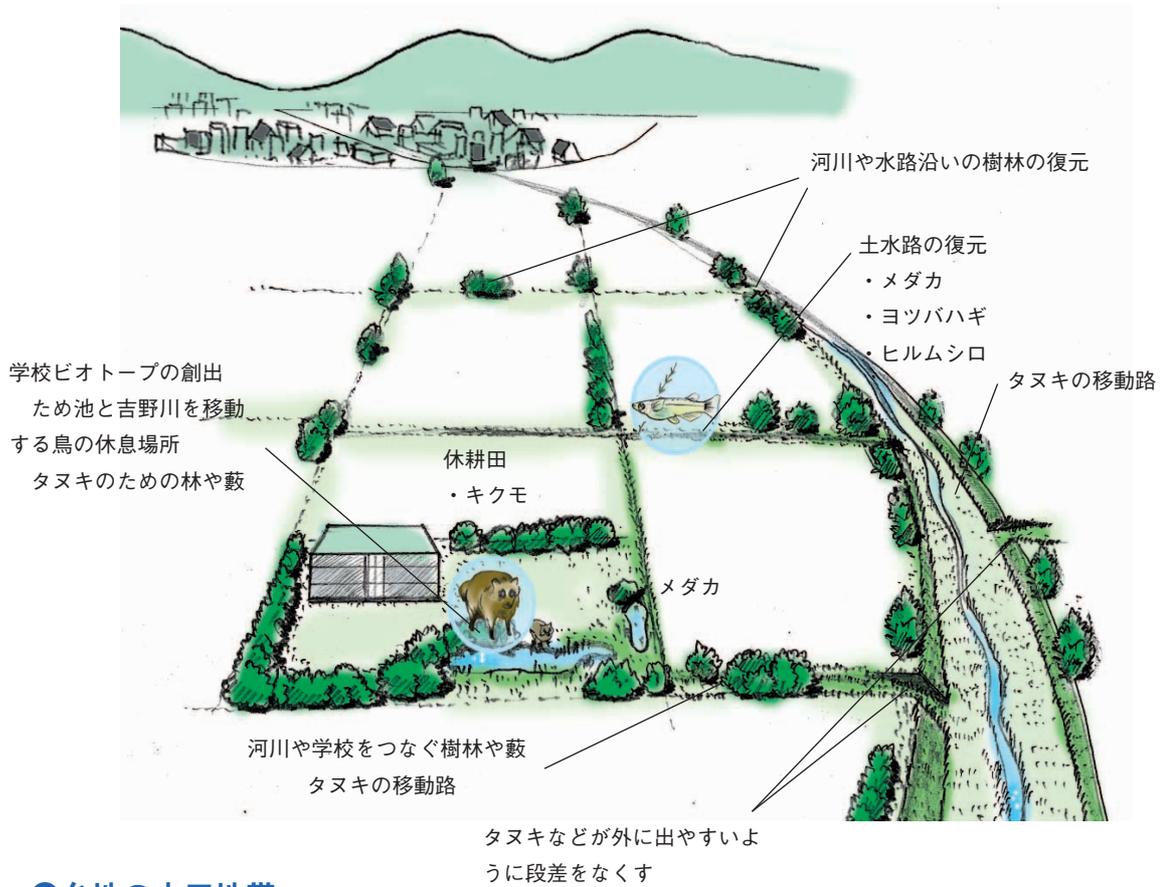
【考え方の例】

吉野川の旧河道より若干高い場所にあるために、湿性環境は少ない場所です。しかし、吉野川と、扇状地の谷に分布するため池の間に位置していることから、水辺環境や樹林環境を創出することによって、水鳥や森林性の鳥が移動しやすくなり、地域の自然の質が高まると考えられます。

ビオトープの復元、創出を図る場合には、水田の畦や土水路の復元などにより、五明谷川や、芝生谷川の水辺、草地とネットワーク化が可能となり、イタチ、タヌキなどの生息環境の向上に役立てることができると考えられます。

【目標とするビオトープタイプ】

水田、水路、小河川、乾性草地、湿性草地



● 台地の水田地帯

【考え方の例】

かつては、小規模なため池が見られましたが、現在では少なくなっています。本来、乾燥した湿地環境が少ない場所であるため、無理に湿地環境をつくらず、鳥の移動、休息の場やタヌキなどの哺乳類のすみかとなる林や、水田の畦、乾性草地、低木林（やぶ）を河川と連続性を持たせながら創出することが望まれます。

【目標とするビオトープタイプ】

低地落葉樹林、乾性草地、低地低木林

